

■帯広畜産大が2年ぶりにAクラス。第10節

第49回北海道学生選手権は第10節の29日、札幌・厚別公園競技場で1部の2試合を行い、帯広畜産大が16-0で北星学園大を、釧路公立大が35-0で室蘭工業大に勝利した。1部はこの日でリーグ戦の日程を終了し、最終順位は①北海道大（5勝）②北海学園大（4勝1敗）③帯広畜産大（3勝2敗）④釧路公立大（2勝3敗）⑤室蘭工業大（1勝4敗）⑥北星学園大（5敗）となった。優勝の北海道大は第14回全日本大学選手権（甲子園ボウル）の北海道地区代表として、11月11日に行われる1回戦で東海地区代表の名城大と岐阜・長良川球技メドウで対戦する。最下位の北星学園大は最終節の11月3日、2部優勝の東京農業大と札幌学院大グラウンドで入れ替え戦を行う。

第1試合は、帯広畜産大が1年生パワーで、2年ぶりのAクラス復帰を決めた。第1Q、自陣40ヤードからの最初の攻撃シリーズで、初先発のQB岡田優人（1年、神奈川・横浜東高）が落ち着いてボールを運び、Kも兼ねるWR桂田陽向（2年、福井・若狭高）の31ヤードFGで先制。第2Q10分に先輩QBの外崎智文（3年、大野農業高）が自らの5ヤードランで加点すると、第4Q8分には先発2試合目のRB西山倅生（1年、札幌光星高）が17ヤードTDランで追加点を奪った。QB岡田は第2Q、第4ダウン8ヤードのギャンブルプレーでQBキープから20ヤードのビッグランも見せた。実働選手が11人の北星学園大は第4QにQB中手龍一（4年、札幌静修高）とWR中田大翔（3年、北星学園大付属高）のホットラインで敵陣1ヤードまで攻め込んだが、TDを狙ったパスがインターセプトを喫した。



帯広畜産大の玉川雄太HCは「けが人対策と、来年を見据えて1年生を起用したが、期待にこたえてくれた。来年抜けるのは1人だけ。下級生も中心選手になってくれるので、今年のいい雰囲気を持続して2強崩しを狙いたい」と来季を見据えた。RB西山は「初めてのTD。アメフトを続けて良かった。フル出場は初めてで緊張したが、練習通りに走ろうと思った。来年は攻守で存在感を示したい」と笑顔を見せ、QB岡田は「先輩QBの外

崎さんもいて支えになった。第4ダウンのランは、先輩LBと練習した成果を出せた。来年はパスをバンバン投げたい」と決意していた。一方、北星学園大の北野啄夢監督は「入れ替え戦で1部チームの意地を見せたい」と選手の奮起を求めた。

第2試合は釧路公立が攻守に圧倒した。第2Q開始直後にRB内海太陽（4年、江差高）の1ヤードランで先制すると、同11分にQB山口響生（3年、札幌清田高）の5ヤードキープで加点。第3Q1分にはLBも兼ねるTE関口翔大（4年、新潟・北越高）が味方DLがパントブロックしたボールをエンドゾーンで押さえてTD。TE関口は第4Q3分に、13ヤードTDパスもキャッチして攻守でTDの大活躍。主将のRB牧野幹大（4年、札幌藻岩高）が第4Q11分に5ヤードTDランで猛攻を締めくくった。室蘭工業大は第4Q、RB北村朋也（4年、釧路北陽高）のランで敵陣5ヤードまで攻め込んだが、TDを狙ったRB北村の2度のダイブを止められて、反撃機を逃した。

釧路公立大の伊藤祐介HCは「4位という成績は不満だが、チームは間違いなくステップアップした。北大、北海学園大ともいい勝負ができ、収穫だらけの1部3年目だった。ライン、QB、レシーバーと中心選手が多数残るので、来年もまだまだいける」と期待を込めた。2TDに加えて2インターセプトのTE関口は「パントブロックは、キッキングチームのリーダーとしてビデオで調べてラッシュを続けたプレーで、自分は押さえただけ。インターセプトも動画でチェックして、コースが分かっていた」と研究の成果を強調。RB牧野主将は「TDは、最後の最後に後輩たちが花を持たせてくれた。4位は悔しいが、来シーズンに向けた試合ができた。後輩たちには、届きかけた壁を越えてほしい」とエールを送った。一方、室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「1部はレベルが高い。来年も主力選手が多数残るので、しっかり練習してリベンジしたい」と巻き返しを決意していた。

